

京都市母子保健に関する意識調査

【結果報告書】 (概要版)

平成21年6月

京 都 市

目 次

I 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査概要	
3	報告書の見方	

II 調査結果の概要

1	お母さんと子どもの状況	3
2	お母さんの就労状況	4
3	妊娠・出産について	5
4	子育て中のことについて	9
5	お父さんの育児参加について	11
6	家族の喫煙と健康への意識について	12
7	事故予防に関する意識について	15
8	食生活について	16
9	歯科に関する意識について	18
10	少子化対策について	19
11	保健所の乳幼児健康診査について	20

I 調査の概要

1 調査の目的

京都市では、平成 17 年 1 月に策定した子育て支援施策の総合計画である新「京（みやこ）・子どもいきいきプラン」※¹（以下「現行プラン」といいます。）に基づき、市民・地域ぐるみで子育てを支え合う子育て支援の風土づくりを進めてきましたが、現行プランの計画期間が平成 21 年度までとなっていることから、これを見直し、平成 22 年度から平成 26 年度までの 5 年間を計画期間とする新たな計画※²を策定することとしています。

現行プランに一体として盛り込んでいる「母子保健計画」は、21 世紀の母子保健の主要な取組を提示した国ビジョンである「健やか親子 21」の趣旨を踏まえ、地域の母子の健康や生活環境の向上を図るための体制の確立に向けた計画であり、本調査は、妊娠、出産、育児その他子育てについての意識や実態、母子保健サービスへの要望等を把握し、次期プランに盛り込む新たな「母子保健計画」を策定するための基礎資料として活用する目的で実施しました。

※¹ 次世代育成支援対策推進法に規定される市町村行動計画の前期計画（計画期間：平成 17～21 年度）に位置付けるものです。

※² 次世代育成支援対策推進法に規定される市町村行動計画の後期計画（計画期間：平成 22～26 年度）に位置付けるものです。

2 調査概要

- ・ 調査地域 : 京都市全域
- ・ 調査対象者 : 平成 20 年 10 月 14 日から 11 月 17 日の間に保健所・支所における乳幼児健康診査（4 か月児，8 か月児，1 歳 6 か月児，3 歳児）に来所した保護者
- ・ 調査期間 : 平成 20 年 10 月 14 日から同年 11 月 30 日まで
- ・ 調査方法 : 保健所・支所における乳幼児健康診査会場でアンケート票配布・郵送回収（無記名回答）

	調査票配布数	有効サンプル数	回収率
母子保健に関する意識調査	3,906	1,726	44.2%
（参考）平成 16 年調査	3,651	1,761	48.2%

3 報告書の見方

- 回答はすべて平成 20 年 10 月 1 日時点の状況に基づいています。
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていないものです。

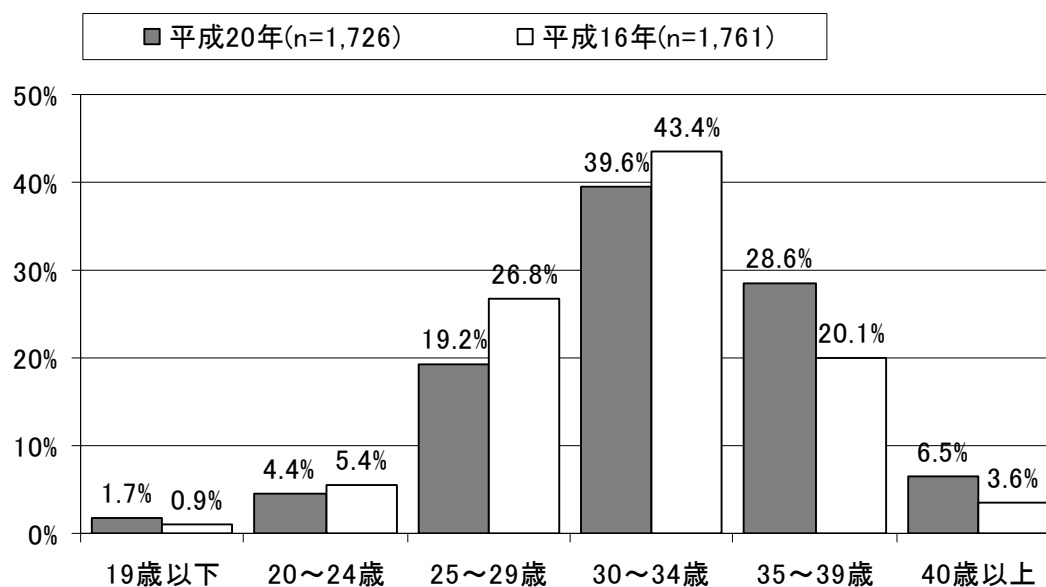
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 文中で、「4 か月児，8 か月児，1 歳 6 か月児，3 歳児では・・・」と表現したものは、「4 か月児，8 か月児，1 歳 6 か月児，3 歳児健康診査に来所した母親の回答においては，・・・」という意味です。
- 問 14，問 15，問 16 については，お父さんがおられる方におたずねしましたが，解答欄が未記入のものについては「無回答」か「父親がいない」か判別できないため，その分は計上していません。

Ⅱ 調査結果の概要

1 お母さんと子どもの状況

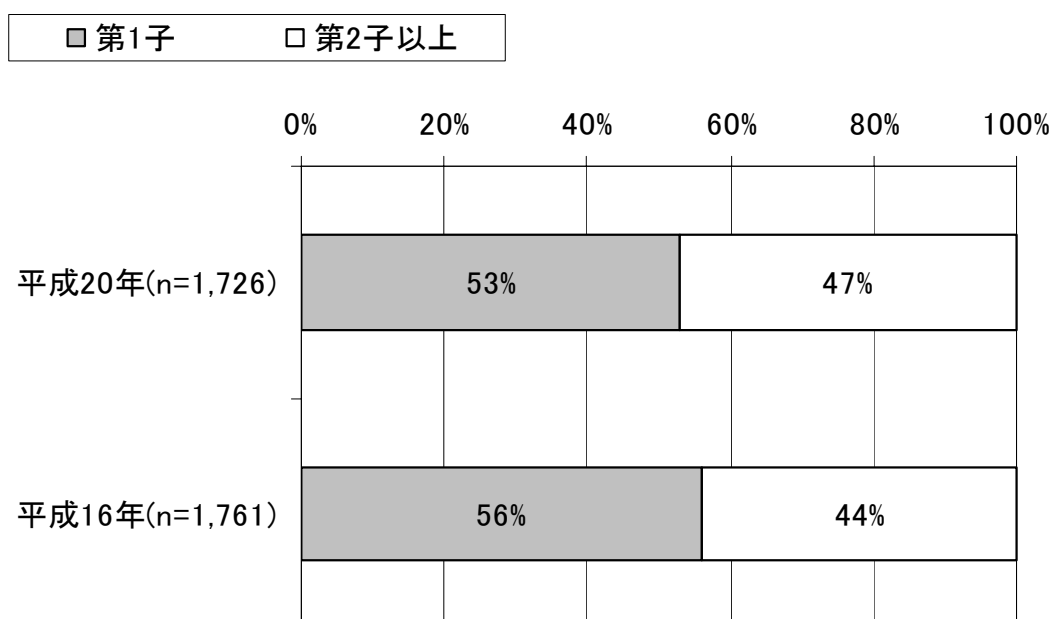
(1) 母親の年齢

- ・30～34歳の割合が、39.6%で最も高い。
- ・平成16年調査と比較して、35歳以上の割合が増加している。



(2) 対象児の出生順位

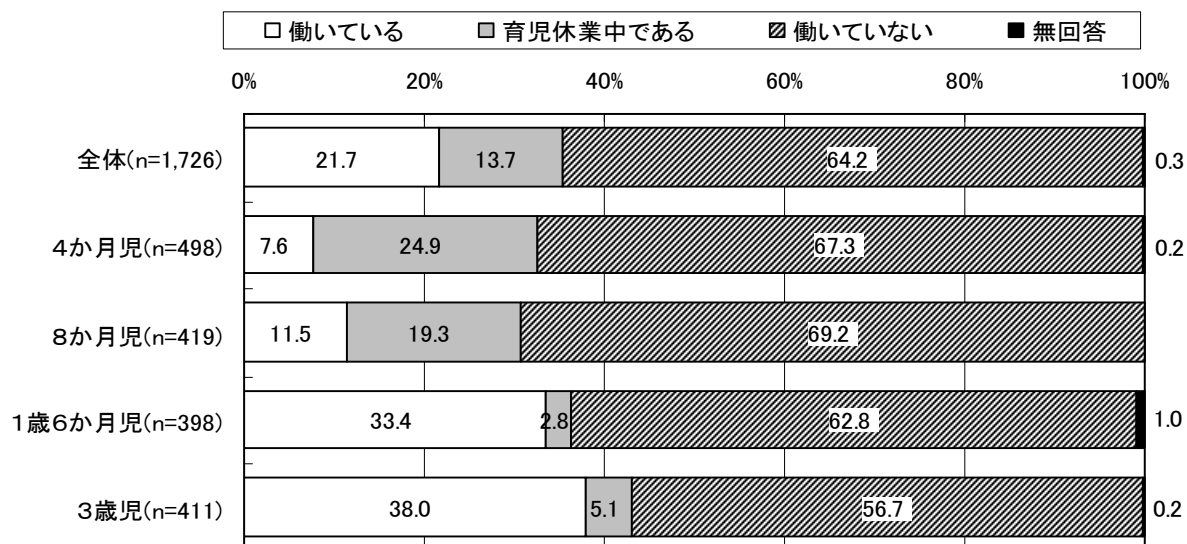
- ・第1子が53%であり、平成16年調査とほぼ同じ割合である。



2 お母さんの就労状況

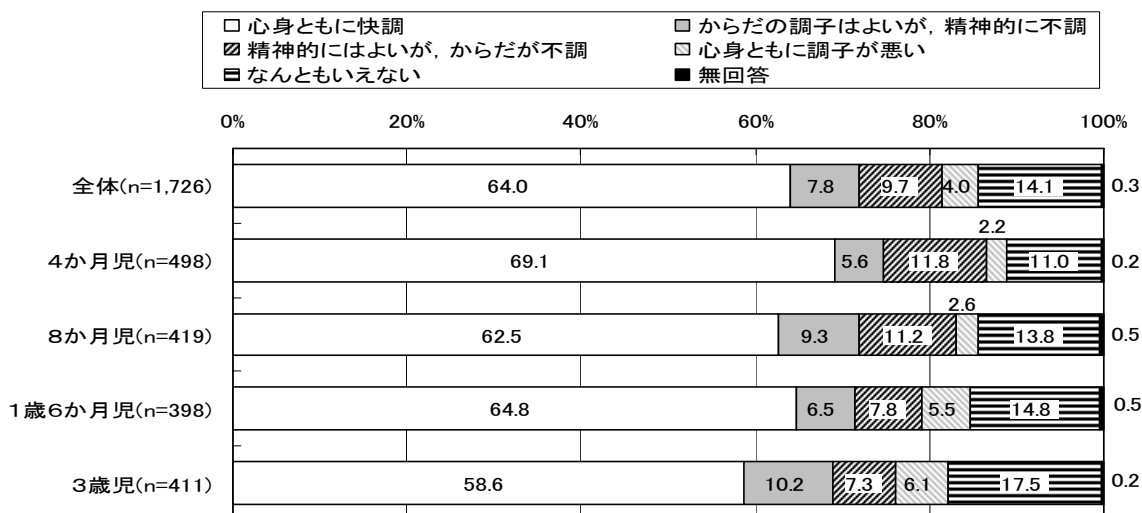
(1) 母親の就労

- ・「働いている」「育児休業中である」を合わせると、就労している母親は全体で35.4%である。
(4か月児32.5%, 8か月児30.8%, 1歳6か月児36.2%, 3歳児43.1%)
- ・「育児休業中である」の割合は1歳6か月児では2.8%, 3歳児では5.1%と低い。



(2) 心身の状況

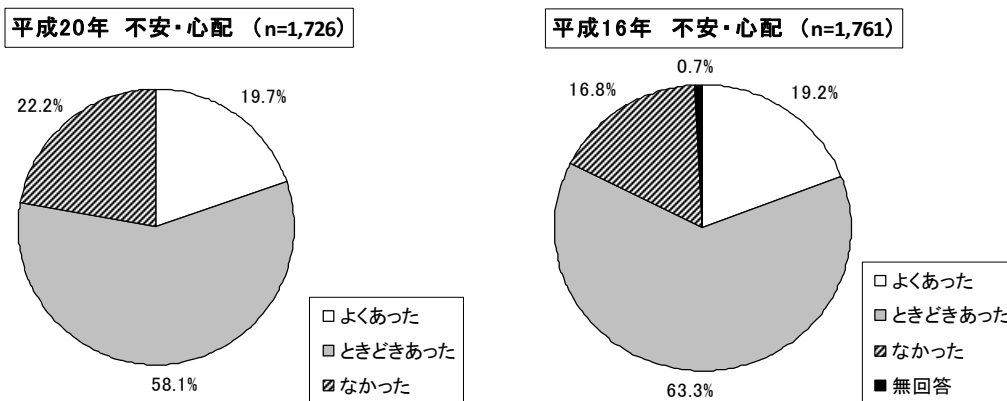
- ・「心身ともに快調」が最も多く、全体では64.0%である。
- ・約2割の母親に「からだの不調」「精神的に不調」「心身ともに調子が悪い」のいずれかの訴えがある。



3 妊娠・出産について

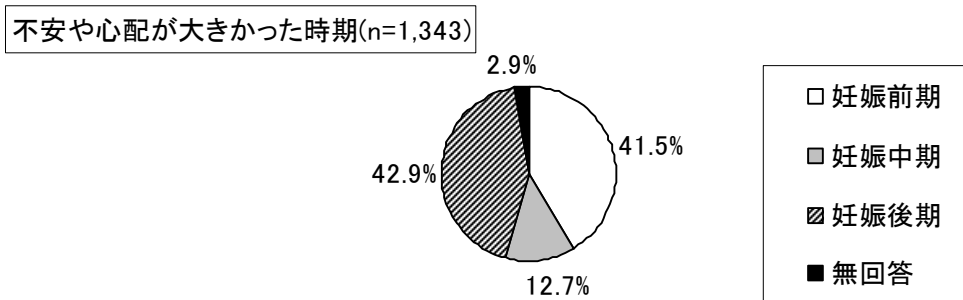
(1) 妊娠中の心配・不安

- ・妊娠中、心配や不安が「よくあった」は19.7%、「ときどきあった」は58.1%である。
- ・平成16年調査と比較して「よくあった」の割合はほぼ同じ、「ときどきあった」はやや減少、「なかった」はやや増加している。



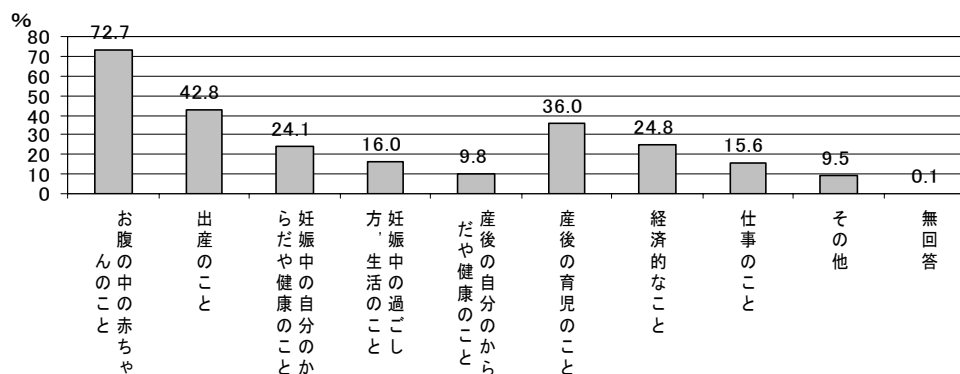
(2) 最も不安や心配が大きかった時期

- ・「妊娠前期」と「妊娠後期」の割合が高い。

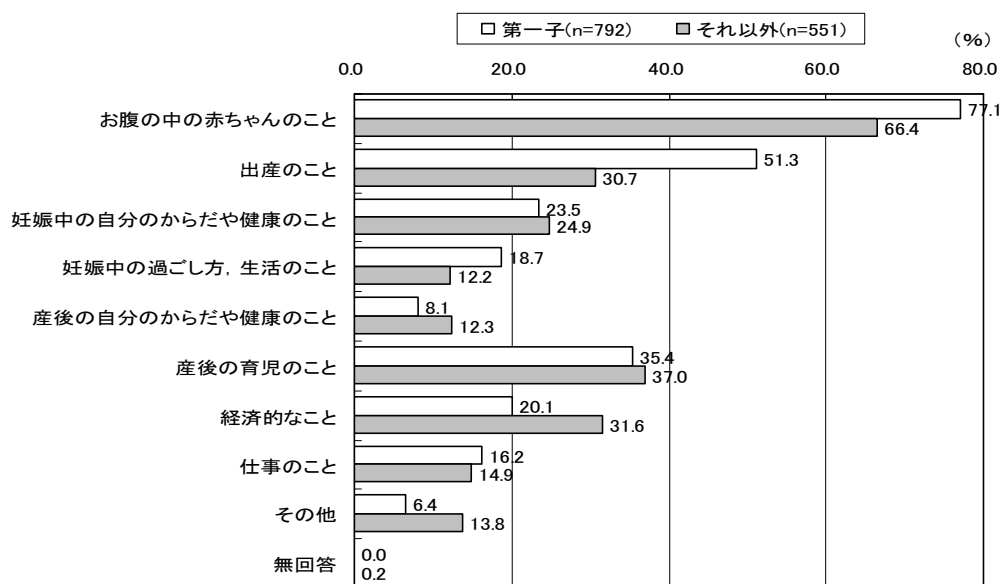


(3) 不安や心配（主なもの3つまで）

- ・内容は、①「お腹の中の赤ちゃんのこと」②「出産のこと」③「産後の育児のこと」である。



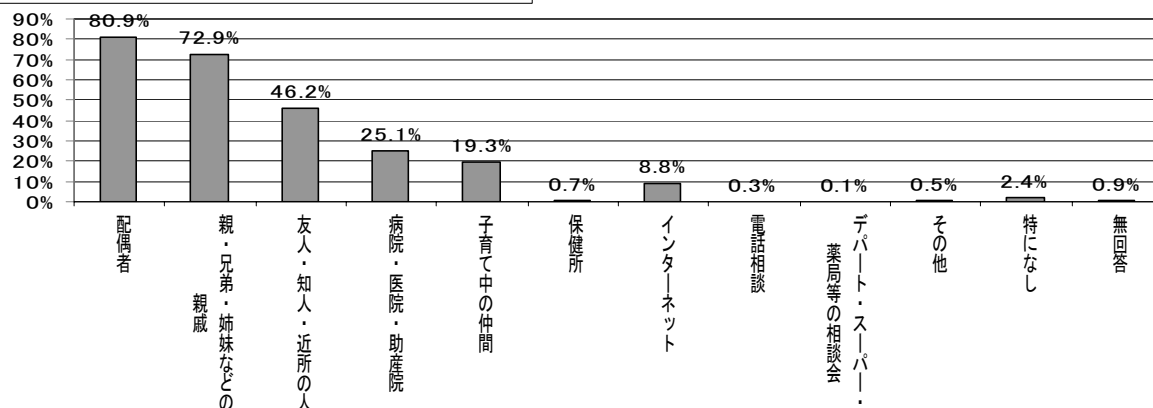
- ・第1子とそれ以外を比べると、
第1子では「出産のこと」、それ以外では「経済的なこと」の割合が高い。



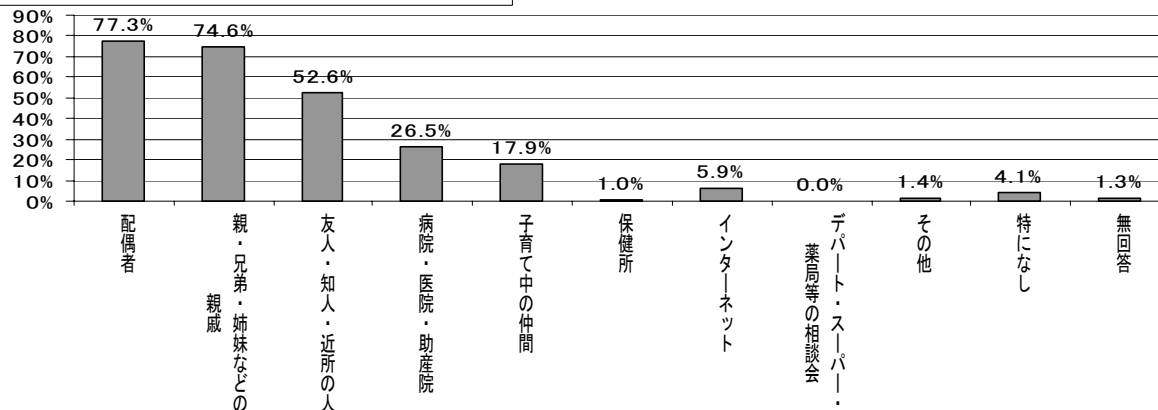
(4) 悩みや不安の相談先（主なもの3つまで）

- ・悩みや不安の相談先は
①配偶者、②親・兄弟・姉妹などの親戚、③友人・知人・近所の人である。
- ・「インターネット」は8.8%であり、平成16年調査の5.9%に比べてやや増加している。

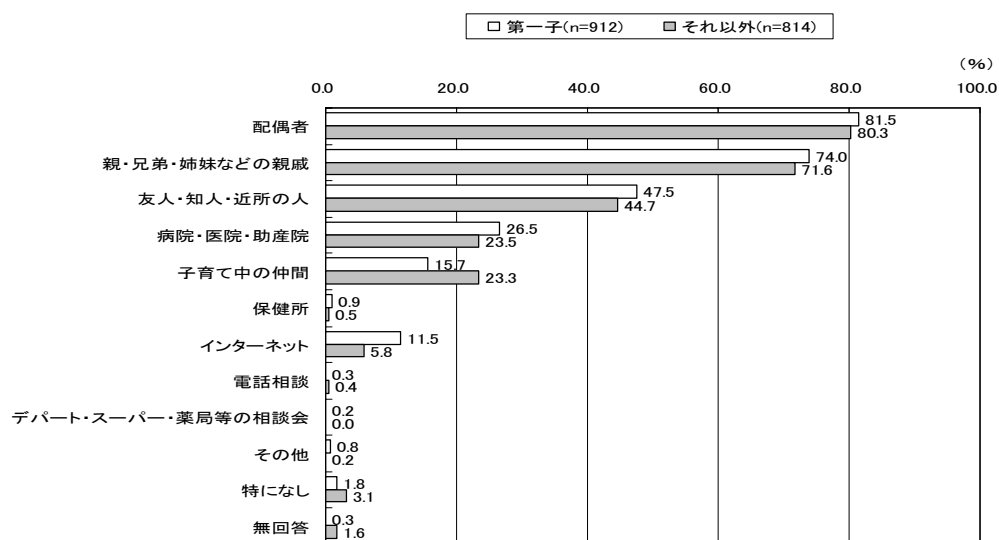
平成20年 悩みや不安の相談先（3つまで）



平成16年 悩みや不安の相談先（3つまで）



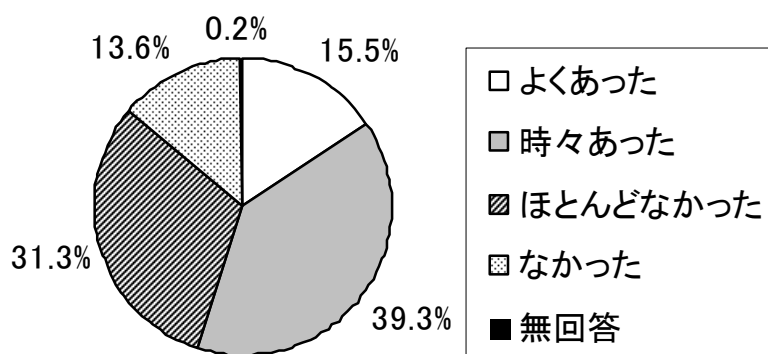
- ・第1子とそれ以外を比べると、
第1子で「インターネット」、それ以外では「子育て中の仲間」の割合が高い。



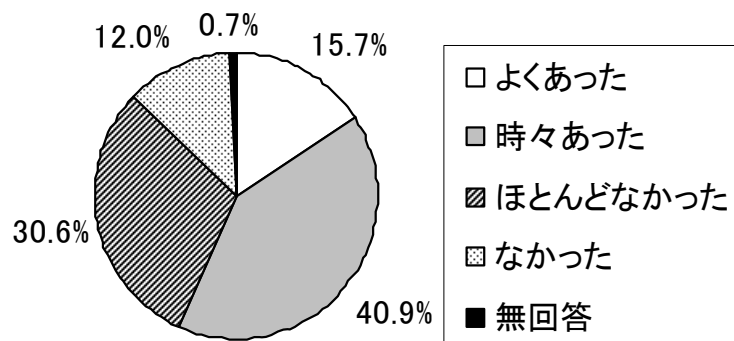
(5) 妊娠中や出産後まもなく、精神的に落ち込むことやイライラを感じること

- ・「よくあった」「時々あった」を合わせると 54.8%であり、平成16年調査と比較してほぼ同じである。

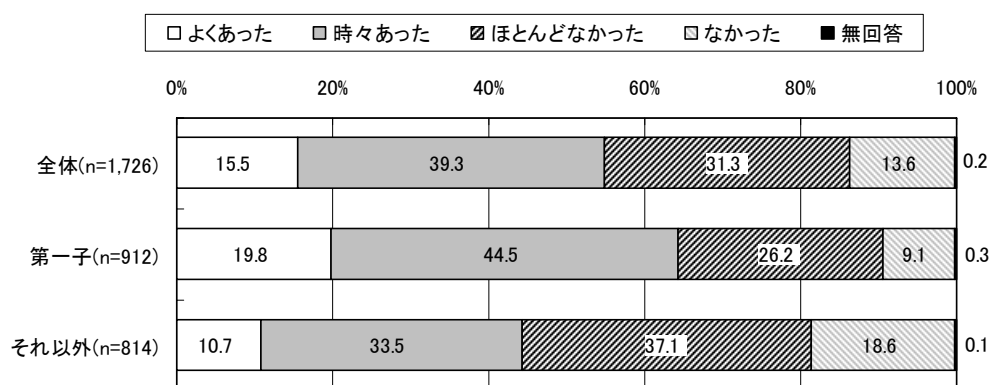
平成20年(n=1,726)



平成16年(n=1,761)



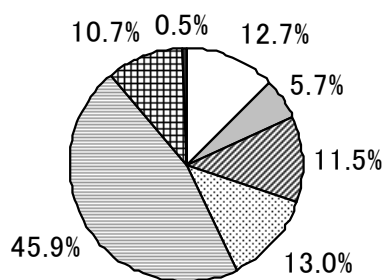
- ・第1子とそれ以外を比べると、
「よくあった」「時々あった」ともに第1子で割合が高い。



(6) 精神的な落ち込みやイライラを感じた時期

- ・精神的な落ち込みやイライラを感じた時期は、「出産後1か月以内」が、全体の45.9%と最も高い。

時期(n=947)

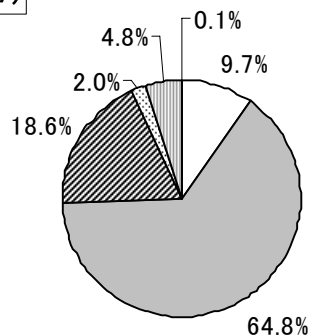


- 妊娠初期
- 妊娠中期
- ▨ 妊娠後期
- ▩ 出産直後(1週間以内)
- ▧ 出産後1か月以内
- ▦ その他
- 無回答

(7) 精神的な落ち込みやイライラの対応方法

- ・「誰かに話をするなどして落ち着いた」は、64.8%であり、「誰にも相談できなかった」は4.8%である。

対応方法 (n=947)

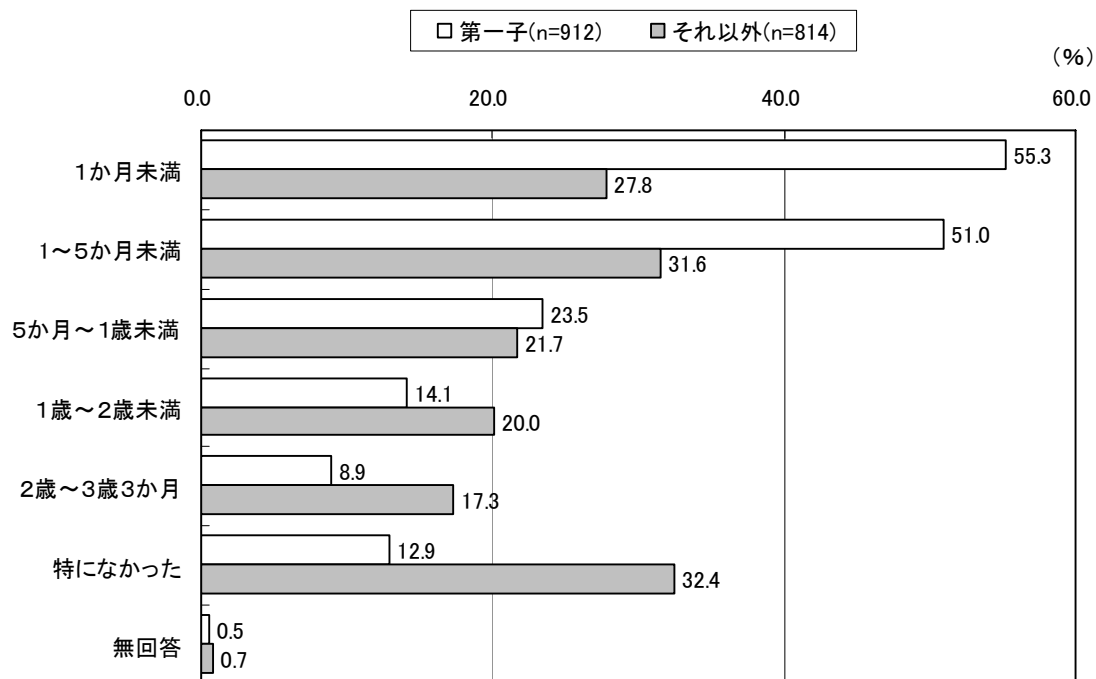


- 自分で気持ちを落ち着かせることができた
- 誰かに話をするなどして落ち着いた
- ▨ 何もせず、時間が経ったら落ち着いていた
- ▩ 専門機関等に相談した
- ▧ 誰にも相談できなかった
- 無回答

4 子育て中のことについて

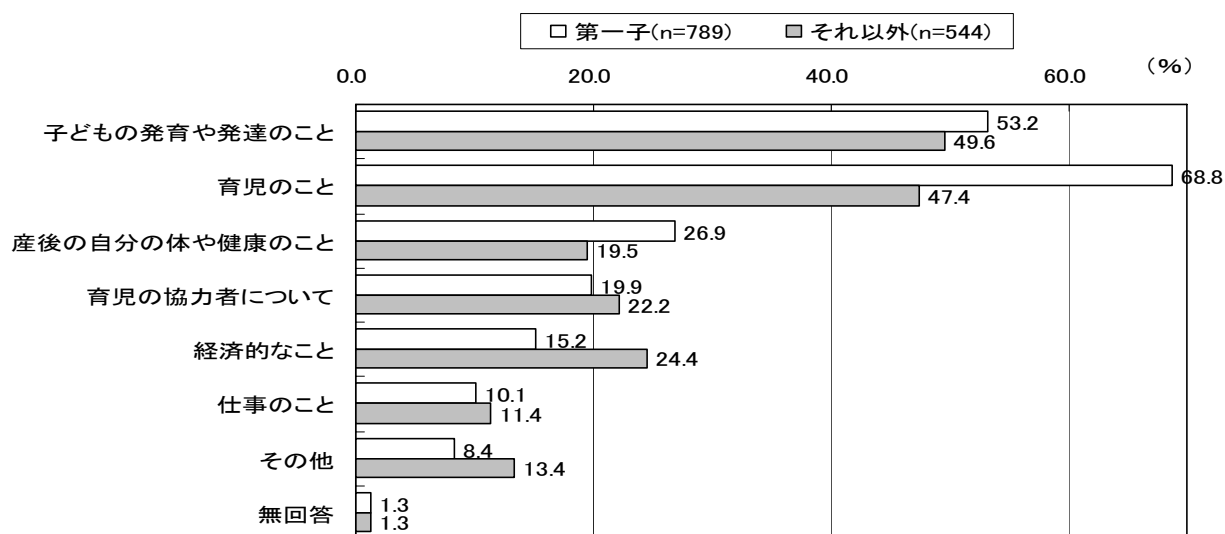
(1) 悩みや不安が大きかった時期（あてはまるもの3つまで）

- 第1子とそれ以外を比べると、
第1子では、「1か月未満」が55.3%、「1～5か月未満」が51.0%である。
それ以外では「特になかった」が32.4%である。



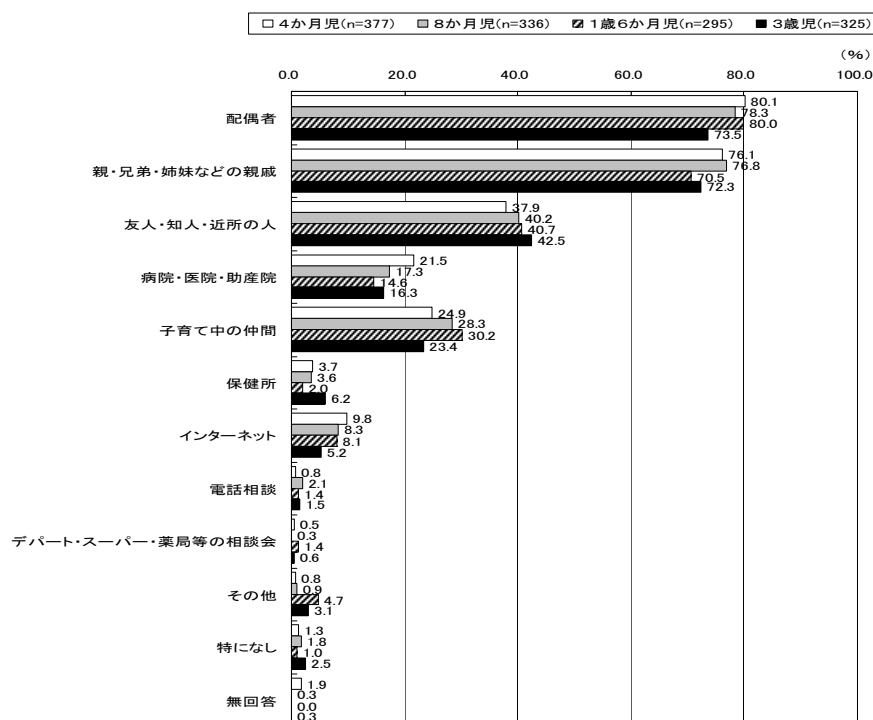
(2) 悩みや不安の内容（主なもの3つまで）

- ①「育児のこと」、②「子どもの発達や発達のこと」、③「産後の自分の体や健康のこと」の割合が高い。
- 第1子とそれ以外を比べると、第1子では「育児のこと」「産後の自分の体や健康のこと」の割合が高く、それ以外では「経済的なこと」の割合が高い。

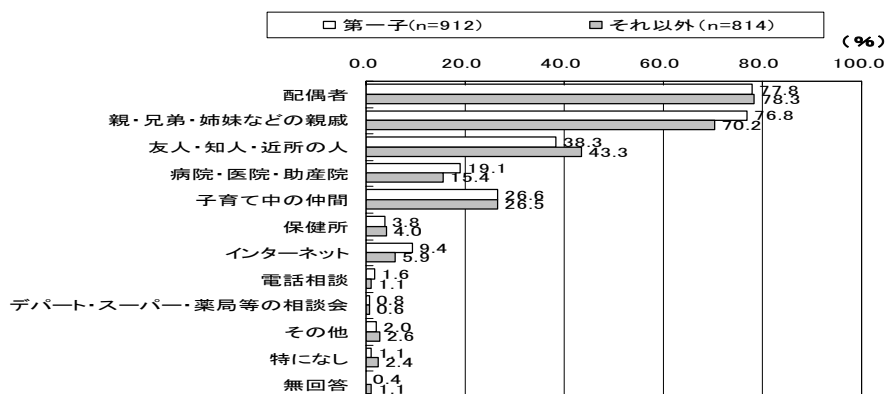


(3) 悩みや不安の相談先（主なもの3つまで）

- ・①配偶者、②親・兄弟・姉妹などの親戚、③友人・知人・近所の人の割合が高い。
- ・対象児の年齢が低いほど「インターネット」を相談先としている割合が高い。

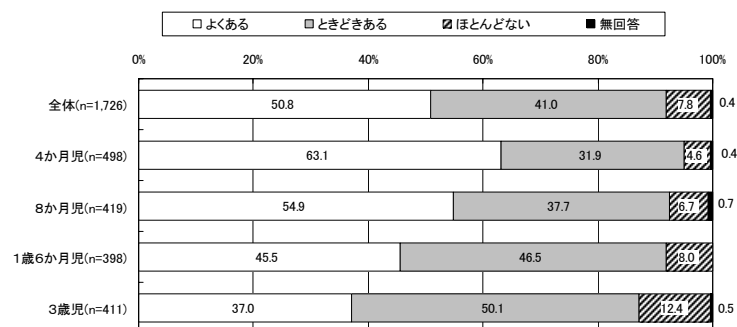


- ・第1子とそれ以外を比べると「インターネット」の割合は、第1子でやや高い。



(4) ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間があるか。

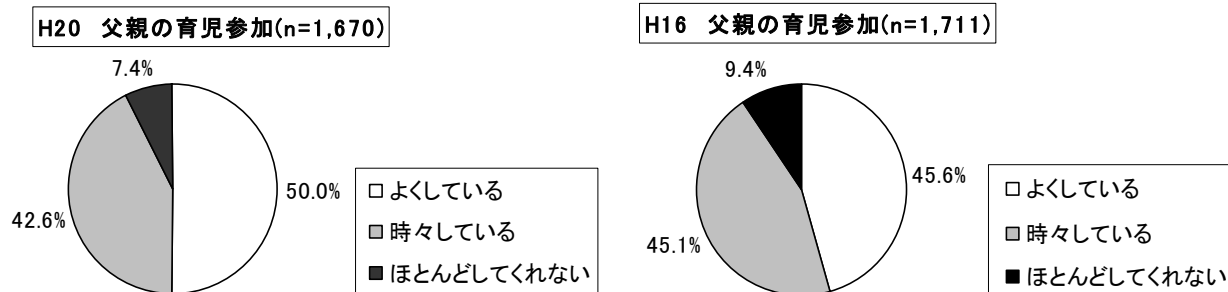
- ・「よくある」が50.8%であるが、対象児の年齢が上がるにつれて「よくある」の割合が減少している。



5 お父さんの育児参加について

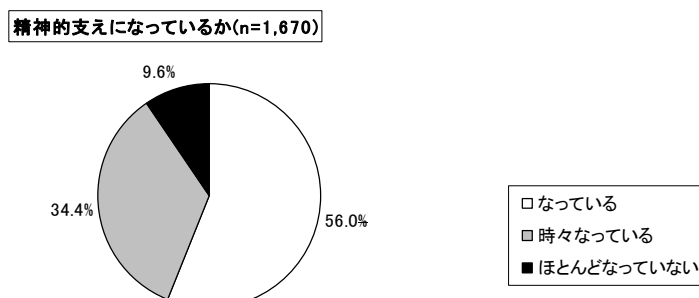
(1) お父さんの育児参加

・「よくしている」は50.0%であり、平成16年調査と比較してやや増加している。



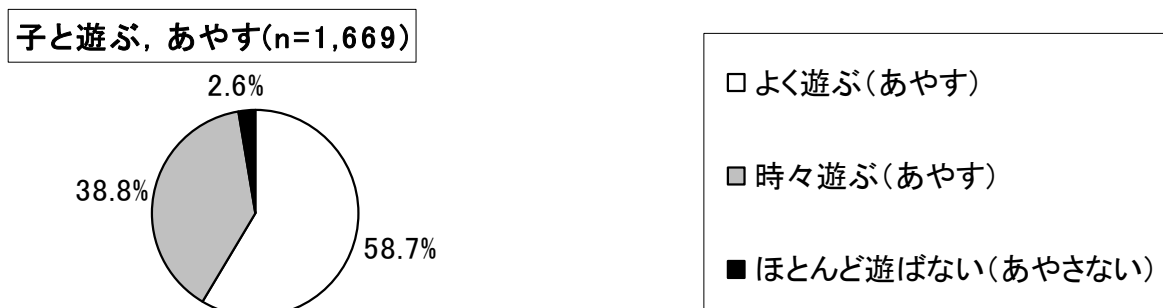
(2) お父さんの精神的支え

・お父さんが精神的な支えに「なっている」は56.0%、「ときどきなっている」は34.4%、「なっていない」は9.6%である。



(3) お父さんが子どもと遊ぶ（あやす）こと

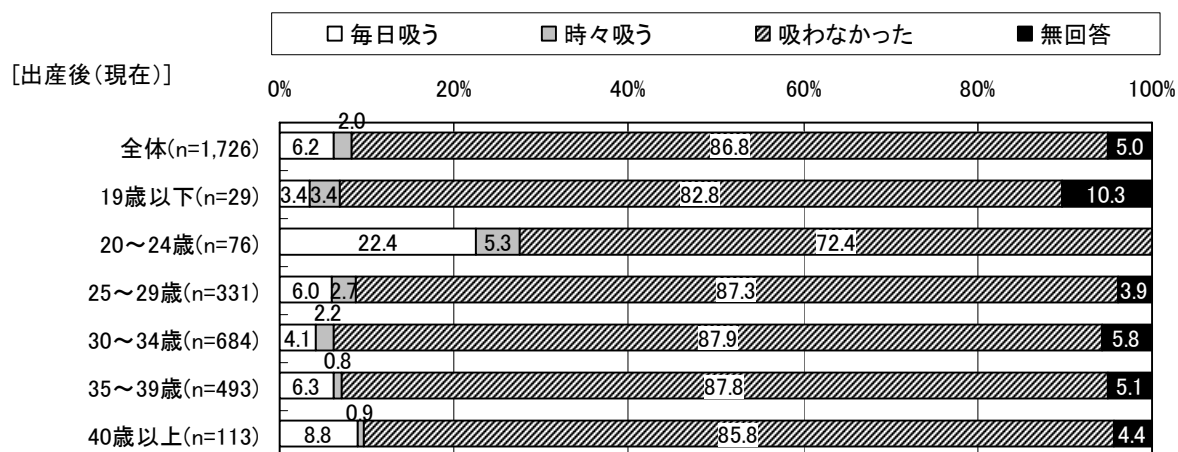
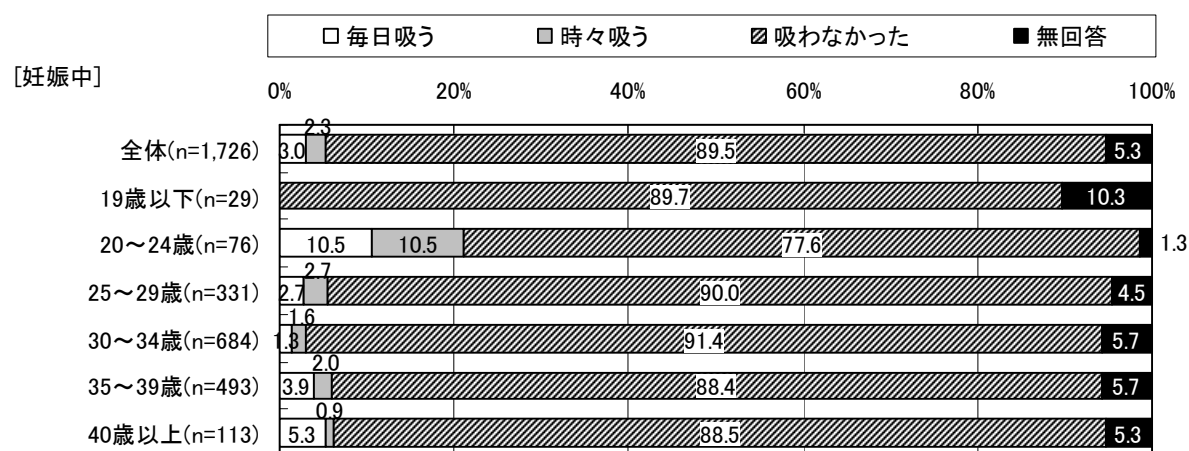
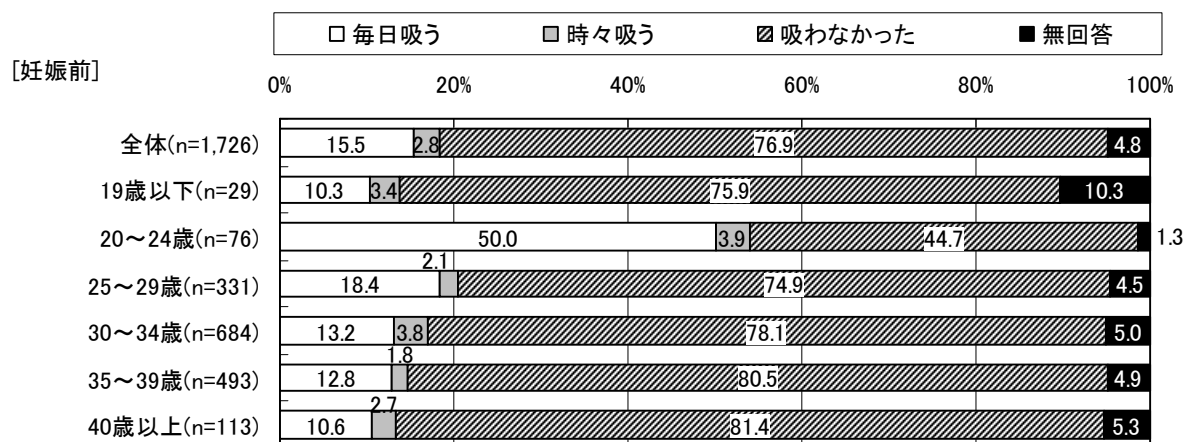
・「よく遊ぶ（あやす）」は58.7%、「ときどき遊ぶ（あやす）」は38.8%である。



6 家族の喫煙と健康への意識について

(1) 母親の喫煙

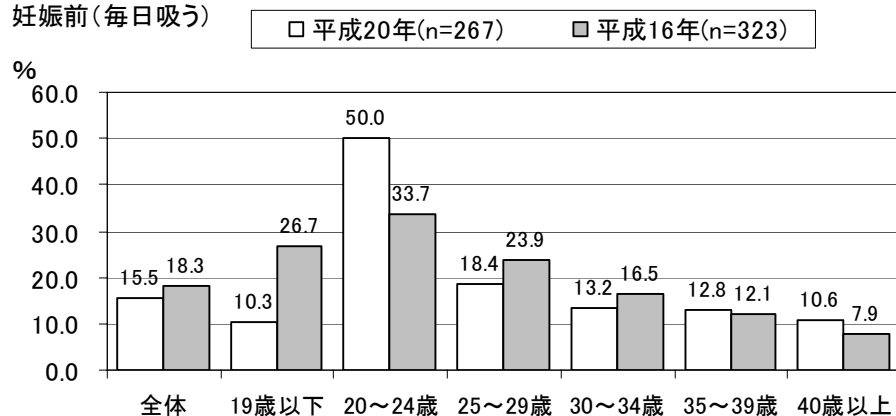
- ・妊娠前は、「毎日吸う」が15.5%である。20～24歳の「毎日吸う」は、50.0%を占める。
- ・妊娠中は、「毎日吸う」は3%と減少している。20～24歳の「毎日吸う」は10.5%である。
- ・出産後は、「毎日吸う」が6.2%と妊娠中と比べて増加している。20～24歳の「毎日吸う」は22.4%である。
- ・いずれの時期においても20～24歳の喫煙率が高い。



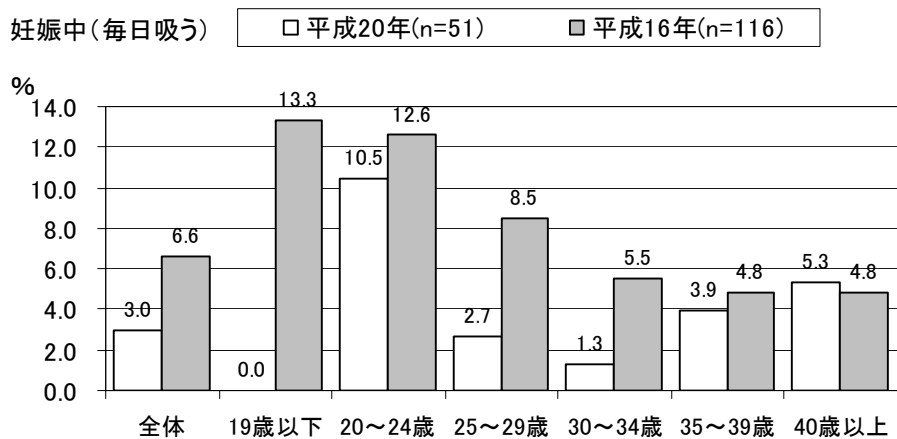
平成16年調査との比較（「毎日吸う」の割合）

- ・全体では「妊娠前」「妊娠中」「出産後」のすべての時期において、平成16年調査と比較して低下している。
- ・妊娠前は20～24歳、35～39歳、40歳以上で、平成20年調査の方が割合が高い。
- ・妊娠中・出産後は40歳以上を除き、平成20年調査の方が割合が低い。

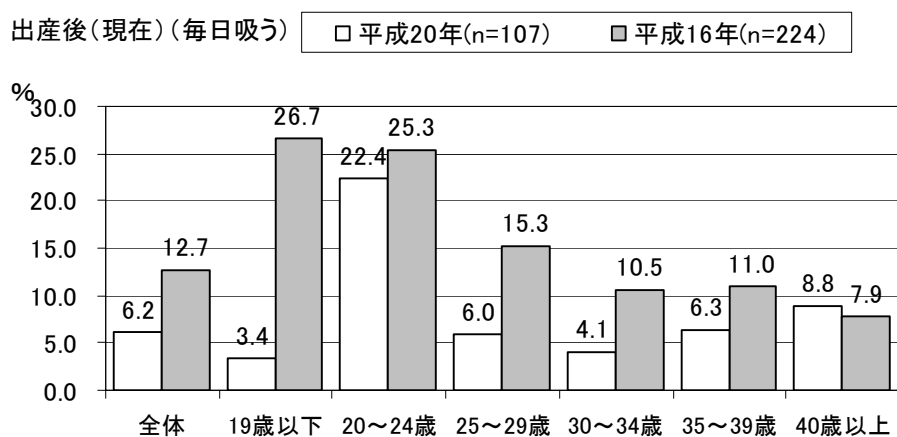
妊娠前（毎日吸う）



妊娠中（毎日吸う）

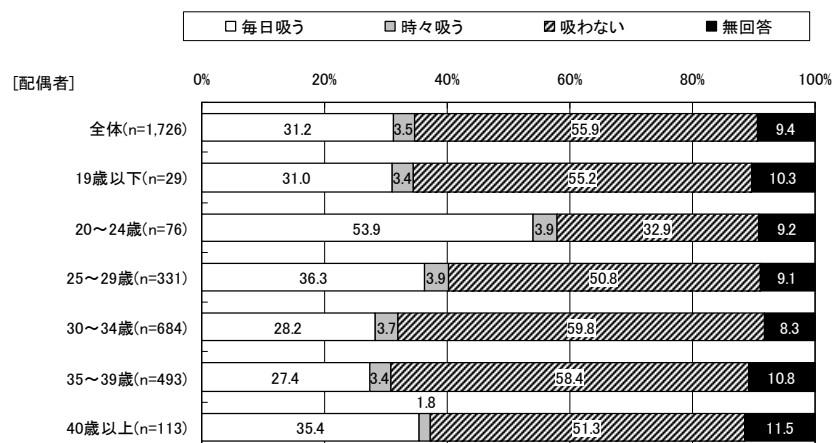


出産後（現在）（毎日吸う）



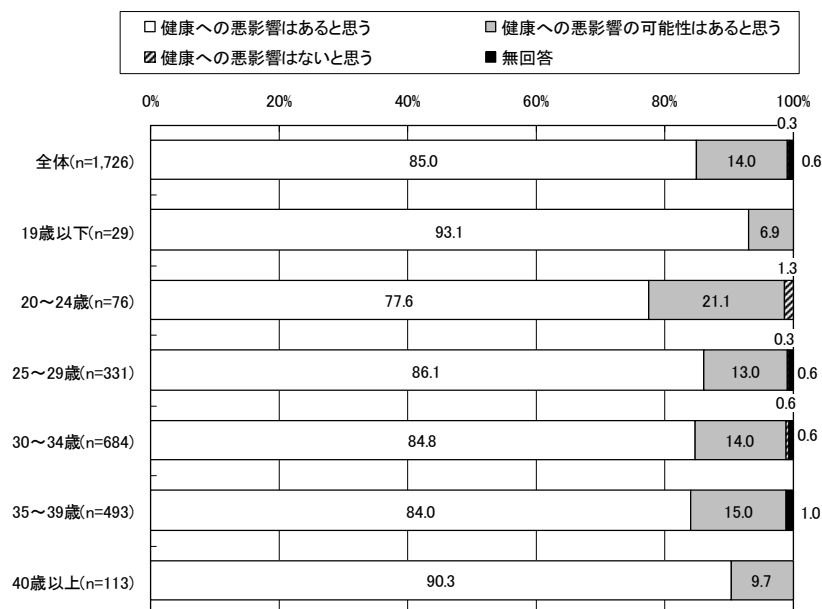
(2) 配偶者の喫煙

- ・「毎日吸う」が31.2%である。母親の年齢が20～24歳では「毎日吸う」が53.9%と特に高い。



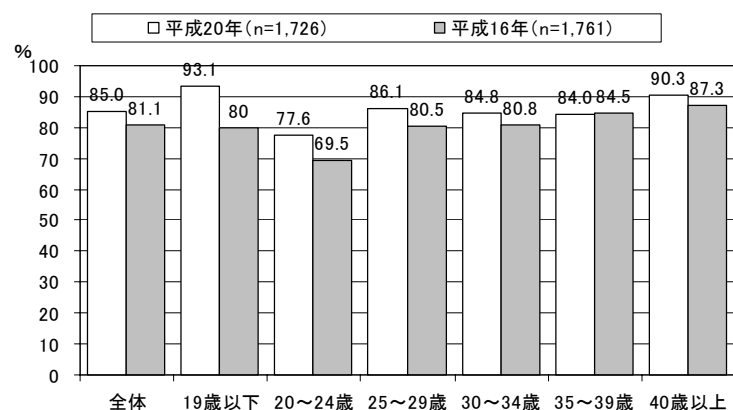
(3) 煙草が妊娠や乳幼児に及ぼす影響

- ・「健康への悪影響はあると思う」が85.0%である。20～24歳では77.6%と他の年齢群に比べて低い。



平成16年調査との比較（「健康への悪影響はあると思う」とする割合）

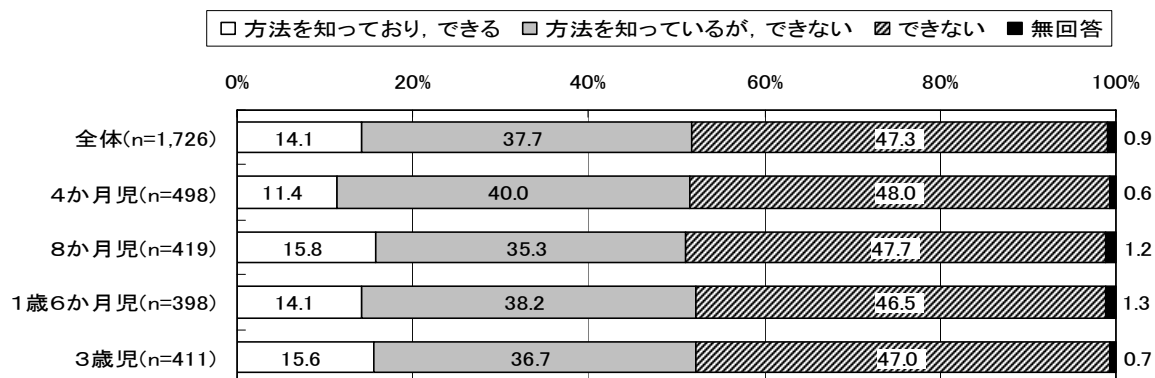
- ・35～39歳を除く年齢群で、平成16年調査より増加している。



7 事故予防に関する意識について

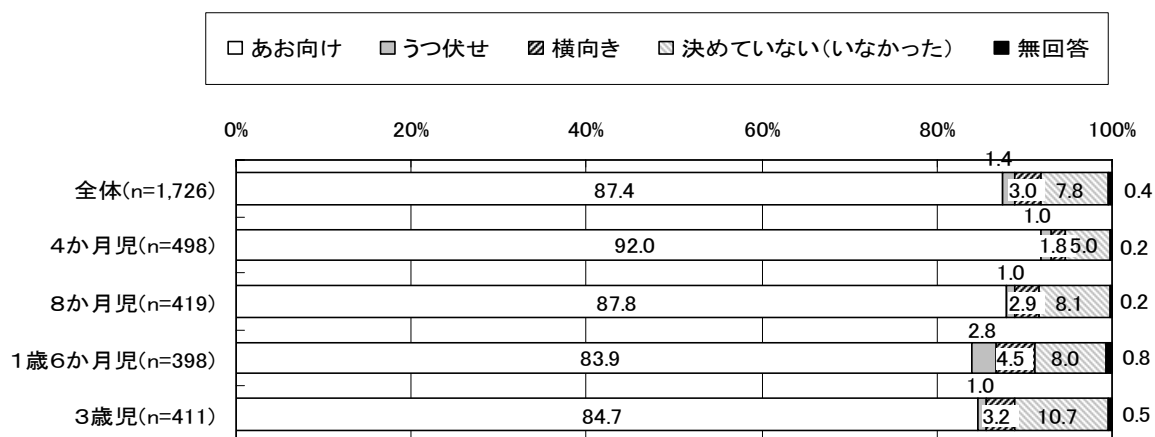
(1) 乳幼児の心臓マッサージ、人工呼吸について

- ・「できる」は14.1%である。
- ・「できない」は47.3%, 「方法を知っているが、できない」は37.7%である。



(2) 寝返りができるようになるまでの寝かせ方

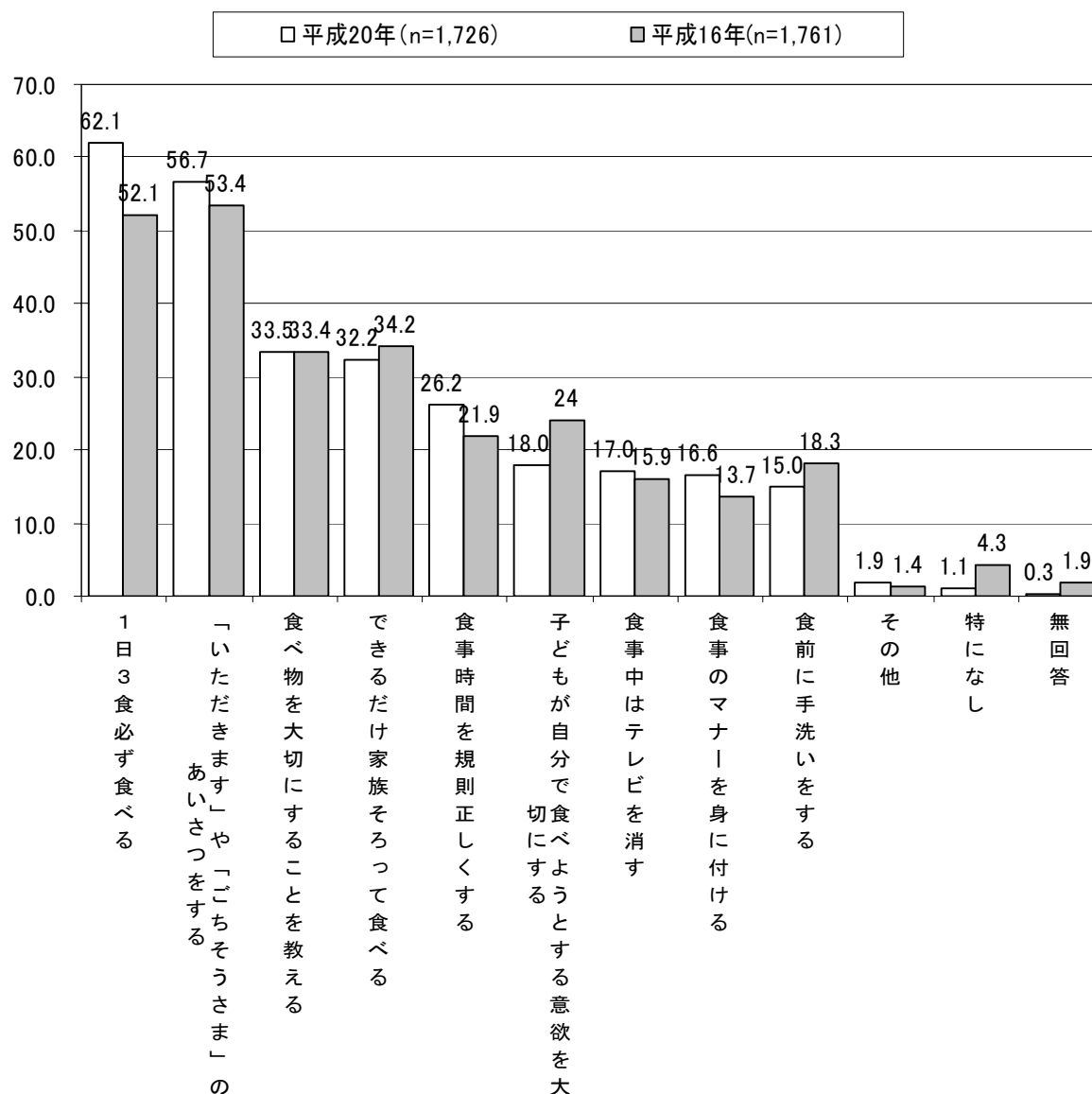
- ・「あお向け」が全体では87.4%, 4か月児では92.0%である。



8 食生活について

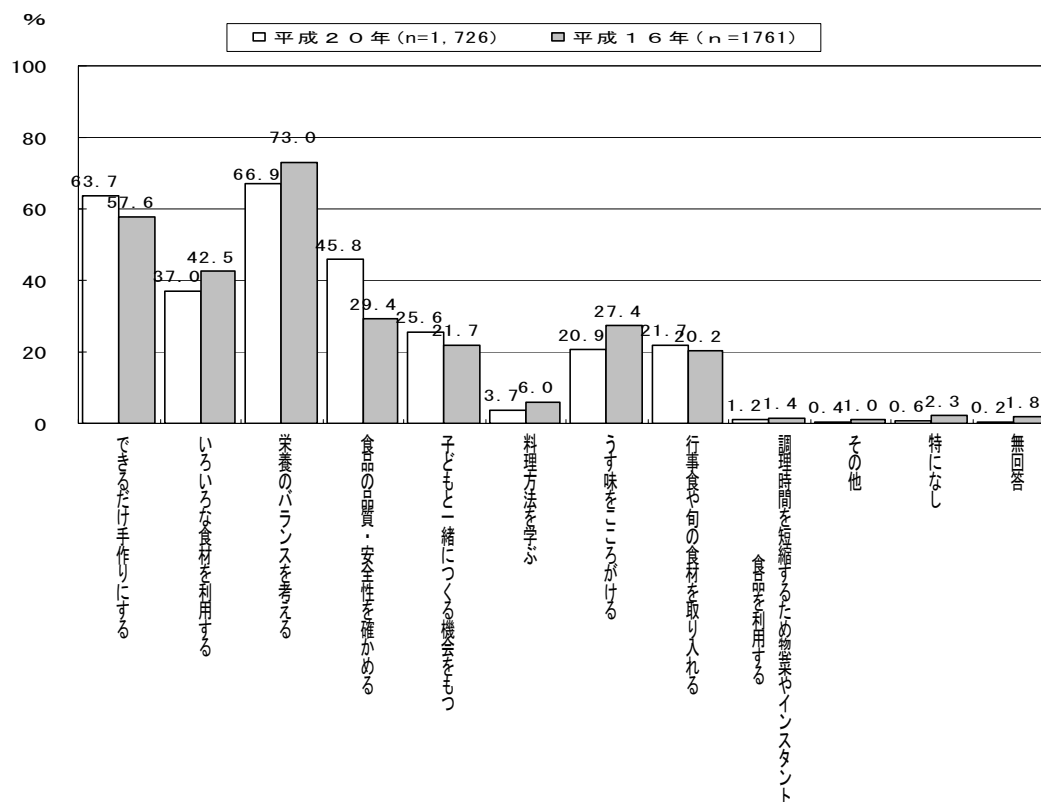
(1) 家族の食生活で気をつけていること（あてはまるものを3つまで）

- ・ 全年齢を通じて、
「1日3食必ず食べる」「いただきますやごちそうさまのあいさつをする」は、50%以上である。
- ・ 平成16年調査と比較して「1日3食必ず食べる」は大きく増加し、「子どもが自分で食べる意欲を大切にする」は、大きく減少している。



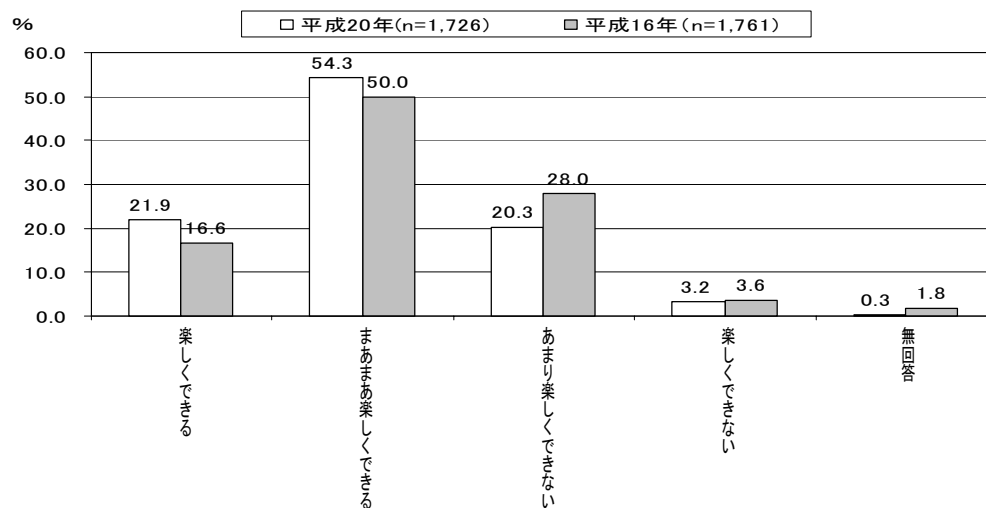
(2) 家族の食事作りで工夫したり、これからしようと思うこと(あてはまるものを3つまで)

- ・「栄養のバランスを考える」がもっとも多く、次いで「できるだけ手作りにする」、「食品の品質・安全性を確かめる」が多い。
- ・「食品の品質・安全性を確かめる」は、平成16年調査の29.4%から45.8%に増加している。



(3) 食事作りが楽しくできる

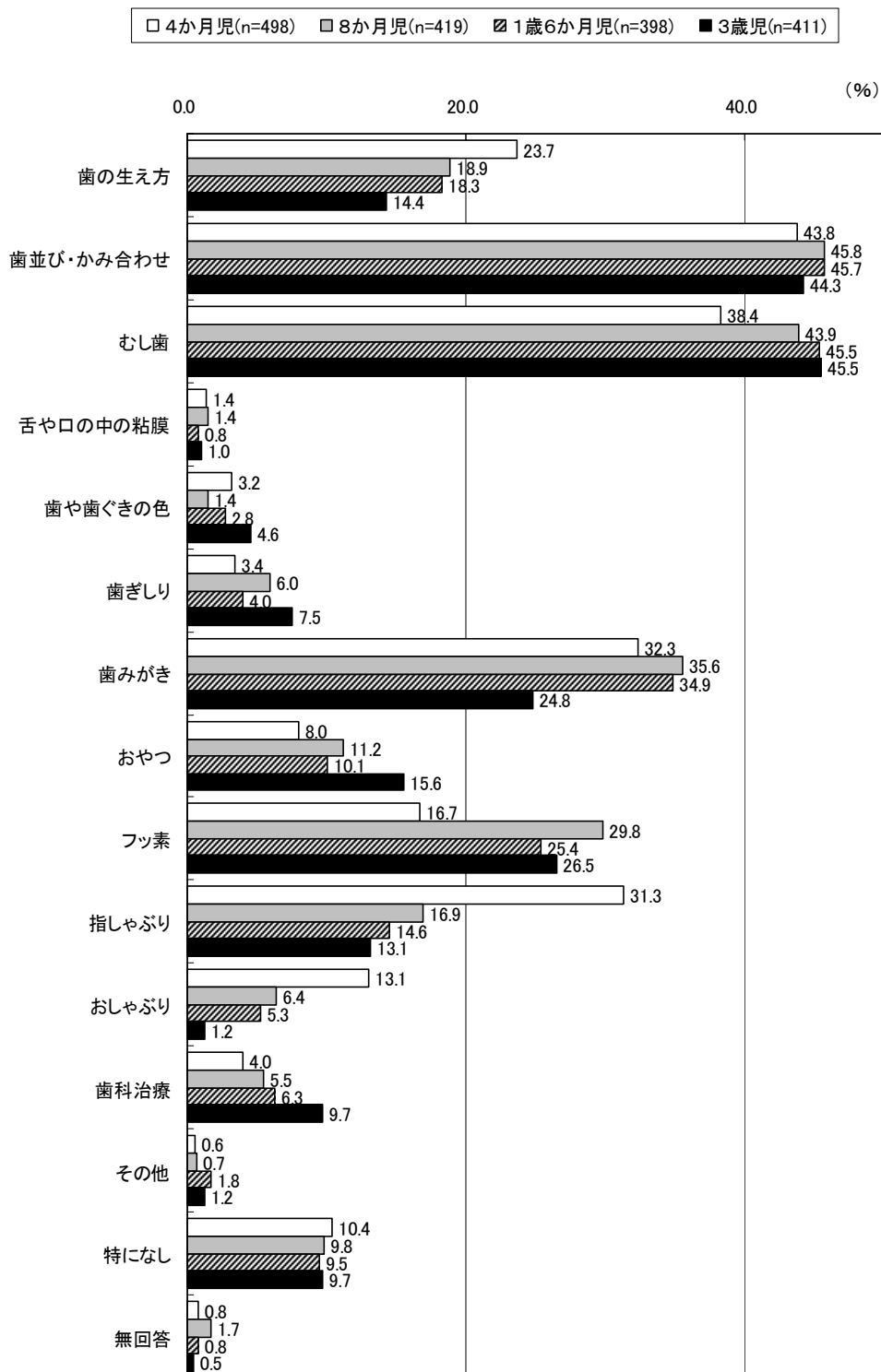
- ・「楽しくできる」「まあまあ楽しくできる」を合わせると76.2%である。「あまり楽しくできない」は20.3%である。
- ・平成16年調査と比較して、「楽しくできる」「まあまあ楽しくできる」が増加している。



9 歯科に関する意識について

○ 子どもの口や歯で知りたいことや心配なこと（あてはまるもの3つまで）

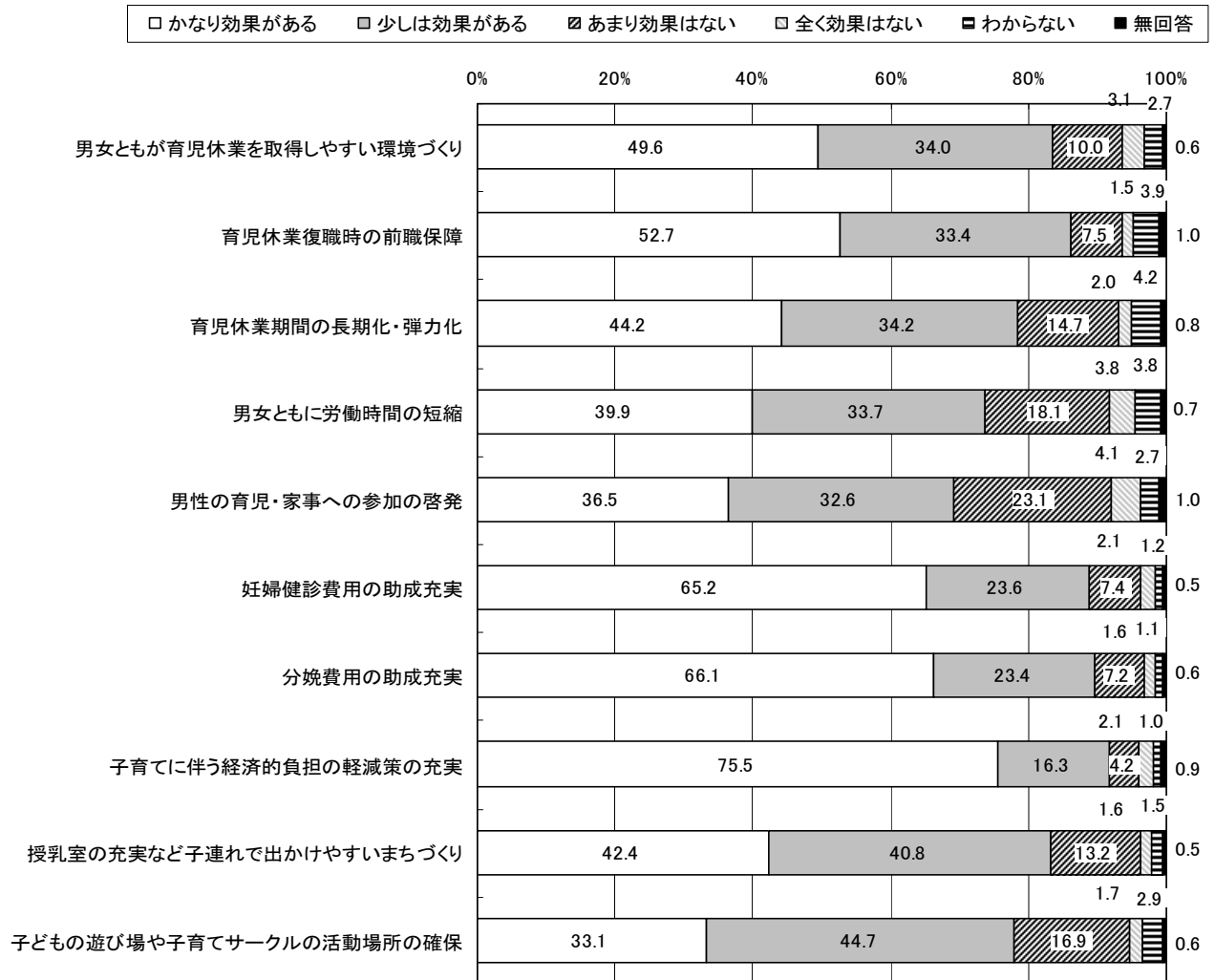
- ・全体では、①歯並び・かみ合わせ、②むし歯、③歯みがきである。
- ・4か月児では「指しゃぶり」「歯の生え方」「おしゃぶり」、8か月児では「フッ素」の割合が高くなっている。



10 少子化対策について

○ 少子化対策に効果があると思う項目

- ・「かなり効果がある」は、「子育てに伴う経済的負担の軽減策の充実」75.5%「分娩費用の助成充実」66.1%、「妊婦健診費用の助成充実」65.2%と、経済面での支援策が上位3位となっている。

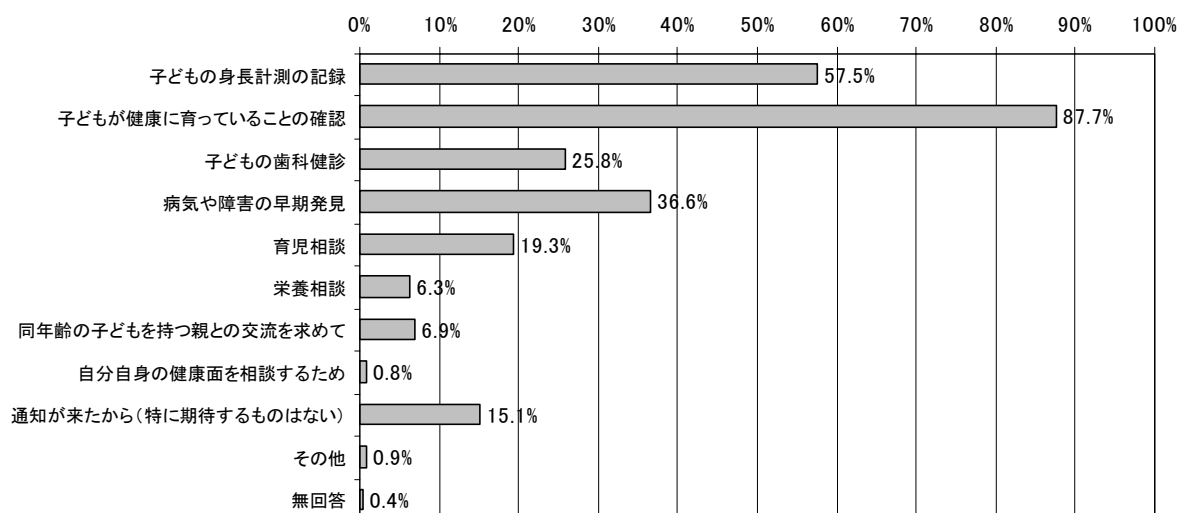


1 1 保健所の乳幼児健康診査について

○ 乳幼児健康診査に期待すること（最もあてはまるもの3つまで）

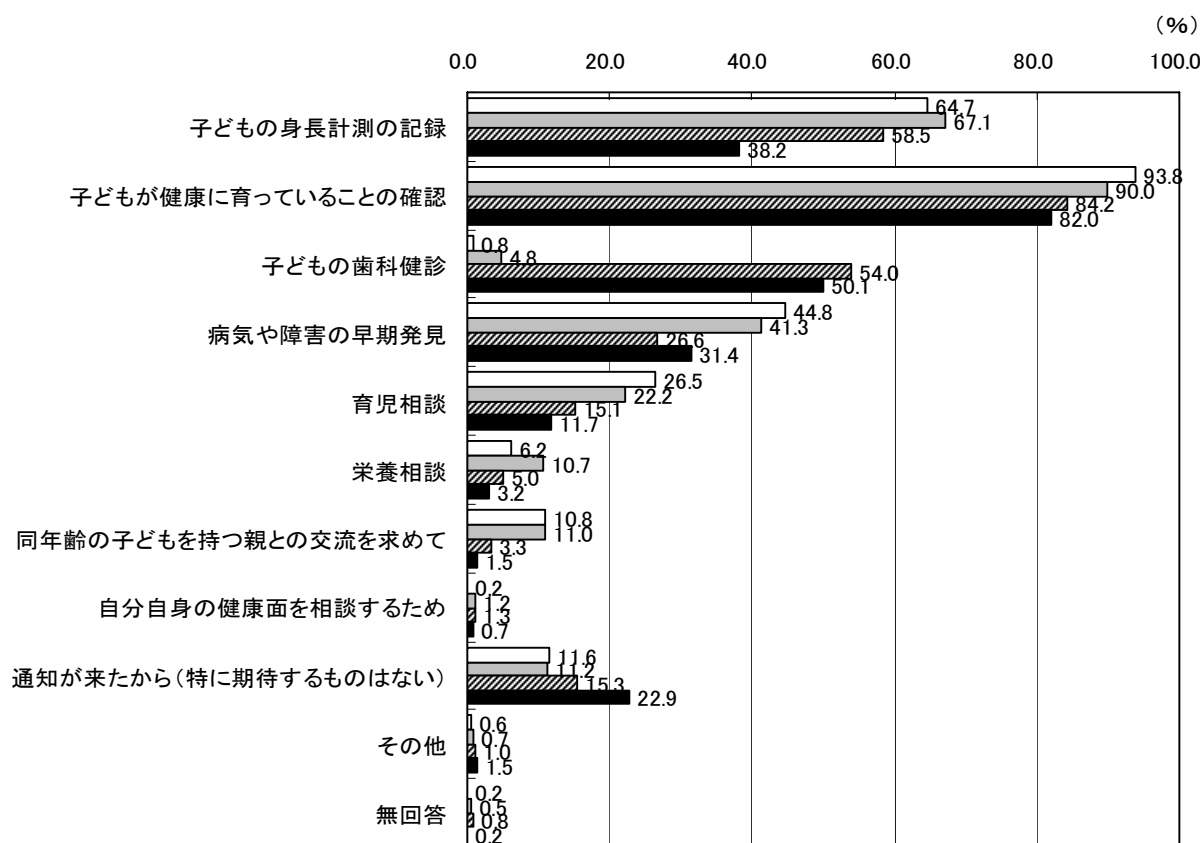
- ・「子どもが健康に育っていることの確認」が最も多く、次いで「子どもの身体測定の記録」となっている。

平成20年(全体) (n=1,726)



- ・4か月児、8か月児では「育児相談」が約25%、「同年齢の子どもを持つ親との交流」が約10%である。
- 1歳6か月児、3歳児では「子どもの歯科健診」が50%を超えている。

□ 4か月児(n=498) □ 8か月児(n=419) ▨ 1歳6か月児(n=398) ■ 3歳児(n=411)



子どもを共に育む京都市民憲章

わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の^{きずな}絆を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切にし、社会の環境づくりを優先します。



平成 19 年 2 月 5 日（育児ニコニコ笑顔の日）制定

3 月 13 日 京都市会が憲章を積極的に推進する決議

京都市母子保健に関する意識調査

【結果報告書】

（概要版）

発行年月 平成 21 年 6 月

京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地

電話：075-222-3411 FAX：075-222-3416

http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-5-1-0-0_25.html

京都市印刷物 第 2 1 3 0 4 9 号

